

事業所における自己評価総括表

公表				
○事業所名	ゆめの音			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日			

○ 分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者(家庭)への支援	・LINEなどで活動の様子を写真で報告している。また、保護者面談を行っており、支援内容だけでなく、子育てに関する困りごと等の相談は随時受付している。 ・また当事者同士のつながりの場として、親子参加イベントを開催している。	保護者向けの茶話会や勉強会などの取り組み検討中
2	子どもの発達状態に応じた個別活動と集団活動が出来る	・集団活動での集団生活適応訓練だけでなく、個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、機能訓練等の適応訓練を日々の活動に取り入れている。 ・音楽療法では、リトミックを通して、ソーシャルスキルや即時反応を高める指導を行っている。聴覚や集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている。・乗馬療法では、体幹を整え、鍛えるだけでなく、動物セラピーでの自律神経を整える事を目的に行っている。	・個別療育を定期的に行った後に、保護者様に分かりやすく、フィードバックできるツールの活用を検討する。 ・リトミックで培ったリズム感覚や表現力等を披露する機会を設ける。
3	季節毎のプログラムや行事がある	行事の担当制や行事をスムーズに行えるように委員会の設置を行い、各担当者が行事の組み立てを行っている。	子供たちが更に色々な体験を史、色々な事を感じ、心豊かに育つように、新たなイベントを考えていきたい。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋数が少ない。	2部屋の間仕切りを取り除いて1つの広い部屋にしているので、部屋数が少ない。保育活動と食事をする場所が一緒になっている。	必要に応じて間仕切りを設置し、部屋数を確保する。その場合、全員で活動できる部屋が減る
2	児童発達支援の利用者数が少なく同世代の友達との関りが少ない。	小学生以上の利用者で定員がいっぱいになっている。	未就学児の確保に努める。また、指導員の子ども(同世代)に関わる機会を設ける。
3	他事業所との連携	相談員を通して必要な情報共有は行われているが、事業所同士が直接情報共有する場を作る事が時間的に困難	担当者会議などの時間調整に工夫が必要
4	地域交流	運動会や秋祭りを公共施設を借りてを行っているが、近隣を招いての活動を取り組むまではまだ難しい。	安全を考慮しながら、外部参加が出来る行事を検討中